

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

大竹市立大竹小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	107	111	95	109	99	95	616	29	645
学級数	4	4	3	4	3	3	21	5	26

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	B	C	A	推進	専科	A	A	A	A	A	A	B
5年2組 (担任：B)	B	B	C	B	推進	専科	A	A	B	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	C	B	C	C	推進	専科	A	A	C	C	C	C	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：D)	D	D	F	D	推進	専科	E	E	D	D	D	D	D
6年2組 (担任：E)	E	D	F	E	推進	専科	E	E	E	E	E	E	D
6年3組 (担任：F)	F	D	F	F	推進	専科	E	E	F	F	F	F	D

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ①専科であることを生かした学年をまたがる系統性を意識した授業を実施した。
- ②毎週実施する学年会の際に翌週の週予定を調整するとともに、担任や教科担任推進教員相互による児童情報の共有を行った。
- ③小中の円滑な接続を意識して、担任間での授業交換をした。
- ④担任間で授業交換をすることにより、授業準備や教材研究をする必要がある教科数を減らした。
- ⑤授業交換を行った各教員が計画的に指導と評価を行ったり、担当する教科の研修に積極的に参加したりした。



<成果>

- ①既習事項や次の学習につながる指導ができた。
- ②児童の小さな変化に気づき、トラブルの未然防止や生徒指導に生かすことができた。
- ③教科によって授業を行う教員が違うことに、児童を慣れさせることができた。
- ④担任が指導する教科数が減るため、教材研究にかかる時間が軽減した。教科担任・専科が行う授業では、評価基準を学級間で統一するなどの成績処理の事務作業が大幅に軽減した。
- ⑤実技教科を中心に同じ評価者が評価を行ったことにより、評価の公平性を確保できた。また、担任が受けもつ学級で行う授業数が減ったことから、多面的に児童を見ることができ、担任だけでは気付けない児童の良さに気付くことにつながった。教員の担当する教科指導の専門性を高めることができた。

＜課題＞

- ①今年度担当していない教科の指導を次年度にすることとなった際に、教科指導の空白期間があることから不安を感じる教員がいる。
- ②指導したことの引継ぎや連携に、時間を要することがあった。
- ③中学校での実際の様子や取組を学ぶ機会がなかった。
- ④担当する教科によって、授業準備や教材研究の負担に偏りが生じた。
- ⑤図画工作科や家庭科で授業交換を行っているため、作品を授業内に完成させられなかった児童に対する指導に困難さが生じた。



＜対策＞

- ①担当しない教科についても、他の教員の指導法を見て学びながら自己研鑽に努める。
- ②放課後には、職員室に集まって各自の業務を行いながら、折に触れて情報共有するようにする。
- ③教科担任制を推進する上で課題となることについて、中学校の教員と交流する機会を設定する。
- ④教科を担当する教員に任せきりにするのではなく、お互いに協力しながら指導を行う。
- ⑤作品完成までの見通しを事前に示して指導に当たる。また、作品が完成に至らなかった児童を休憩時間に集合させて指導を行った。